



2021年3月期決算 2022年3月期業績予想 中期経営計画の進捗

オリエンタル白石株式会社

(東証一部 1786)

2021年6月8日

代表取締役社長 大野 達也

Agenda

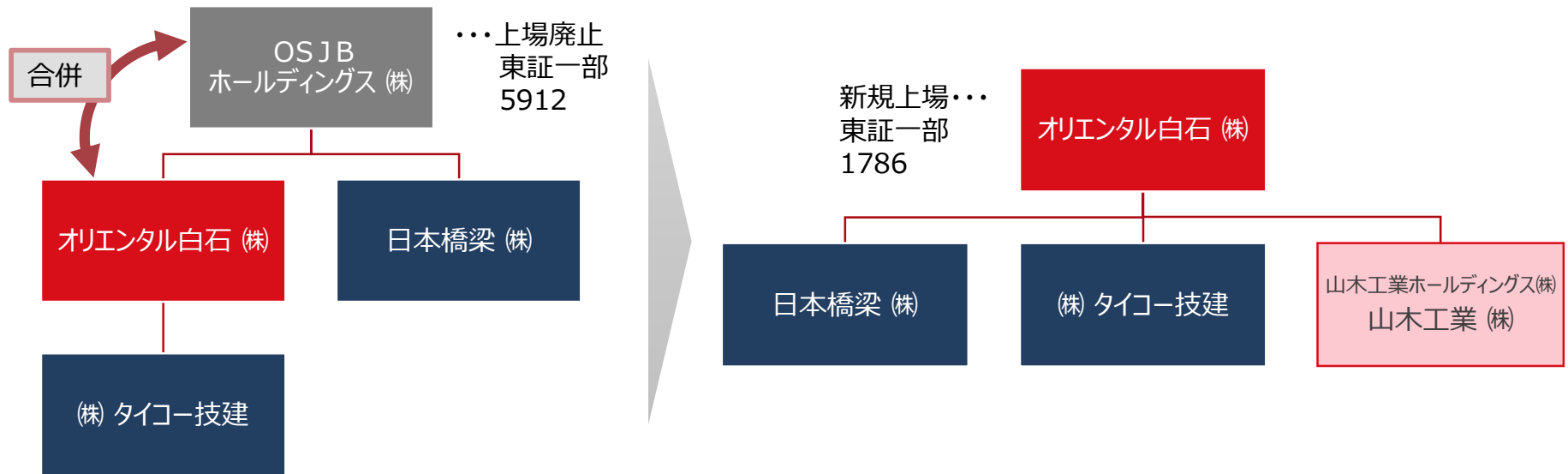
- I … オリエンタル白石グループの発足
- II … 2021年3月期連結業績概要
- III … 2022年3月期連結業績予想
- IV … 中期経営計画（2020-2022）の進捗



I … オリエンタル白石 グループの発足



I ...オリエンタル白石グループの発足 グループの再編



オリエンタル白石が親会社のOSJBホールディングスを吸収合併（2021/4/1）

山木工業ホールディングスをM&Aにより子会社化（2021/2/19）

① 意思決定の迅速化・経営効率の改善・戦略や方向性の明確化

② 中期経営計画：地域戦略（東北）強化と新領域（港湾）への事業展開

オリエンタル白石グループの構成

社名	オリエンタル白石株式会社 【英文名】Oriental Shiraishi Corporation			
本社	東京都江東区豊洲五丁目6番52号			
代表者	代表取締役社長 大野 達也			
設立	1952年（昭和27年）10月21日			
資本金	10億円			
従業員数	連結 928名 単体 695名（2021年4月現在）			
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレストレストコンクリート土木構造物の建設工事及び製造販売 ・ ニューマチックケーソン工法を用いた建設工事 ・ 橋梁等の補修補強工事 ・ プレストレストコンクリート建築構造物の設計施工 ・ 太陽光発電による売電事業 			
グループ企業	名称	主な事業内容	資本金 (百万円)	当社出資 比率 (%)
	日本橋梁株式会社	橋梁等の鋼構造物の設計・製作・架設、補修補強などの工事	40	100
	株式会社タイコー技建	建設機材の設計・製作、建設工事	20	100
	山木工業ホールディングス(株)	山木工業(株)の株式保有を通じた経営指導	100	99.9
	山木工業株式会社	港湾土木などの工事	60	(99.9) *

* () 内は間接所有割合

I ...オリエンタル白石グループの発足

グループの有する工場・施設

■ グループ生産能力及び競争力の源泉

尾道工場 | 鋼製品
@広島県尾道市



岡山機材センター
@岡山県瀬戸内市



太陽光発電
@兵庫県西脇市



東北機材センター
@宮城県加美郡



山木工業(株)
@福島県いわき市



福岡工場 | コンクリート製品
@福岡県三井郡



関東工場 | コンクリート製品
@栃木県真岡市



福岡機材センター
@福岡県三井郡



滋賀工場 | コンクリート製品
@滋賀県犬上郡



関東機材センター
@群馬県藤岡市



つくば機材センター
@茨城県つくば市



技術研究所
@栃木県真岡市

Ⅱ…2021年3月期 連結業績概要

(OSJBホールディングス株式会社分)

※ 中期経営計画（2020-2022）1年目

(注)
オリエンタル白石株式会社（当社）は2021年4月1日、
当社の完全親会社であるOSJBホールディングス株式
会社を吸収合併し、OSJBホールディングスの連結財
務諸表を引き継いでいます。



事業環境

建設業界を取り巻く事業環境

① 2020年度の建設投資額の見通しは、前年度比3.4%減の63兆1600億円

- ・ 防災、減災、国土強靱化やインフラ老朽化対策などの公共投資は継続、特に、令和2年度補正予算で計上された「防災、減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」（5年間で15兆円の投資）で公共投資は今後も増額基調。
- ・ 民間投資は、新型コロナウイルス感染症の拡大により発注が鈍化。
- ・ 高速道路大規模更新事業の発注は当分の間継続し、工事規模の大型化が進む。

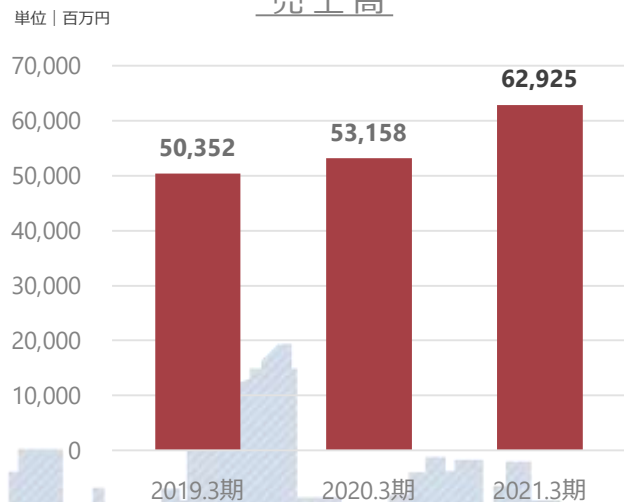
② 新型コロナウイルス感染症の拡大の中、施工体制の維持に各社注力

- ・ 民間企業設備投資は、設備投資計画の中止や延期が増加する見通しであるが、国土強靱化等インフラの整備は喫緊の課題である。
- ・ 社会資本整備の担い手として、国、業界団体と足並みを揃え、感染防止に努めつつ、力強い事業推進が求められる。

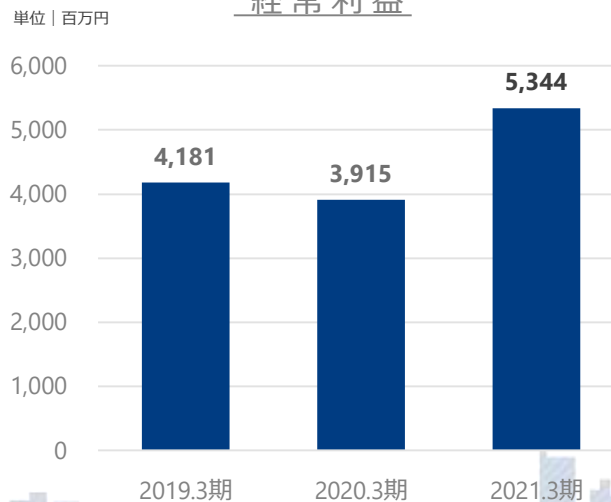
売上と損益

単位 百万円	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		主な増減要因
	実績	前期比 増減率 %	実績	前期比 増減率 %	実績	前期比 増減率 %	
売上高	50,352	1.6	53,158	5.6	62,925	18.4	大型工事が順調に進捗
売上総利益	8,135	10.8	8,019	△1.4	9,762	21.7	主要セグメントが設計変更含め好調 コロナウイルスの影響が軽微
営業利益	4,118	28.2	3,785	△8.1	5,239	38.4	
経常利益	4,181	26.0	3,915	△6.4	5,344	36.5	
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,226	51.5	6,828	111.6	3,943	△ 42.2	前期が土地売却で特別利益

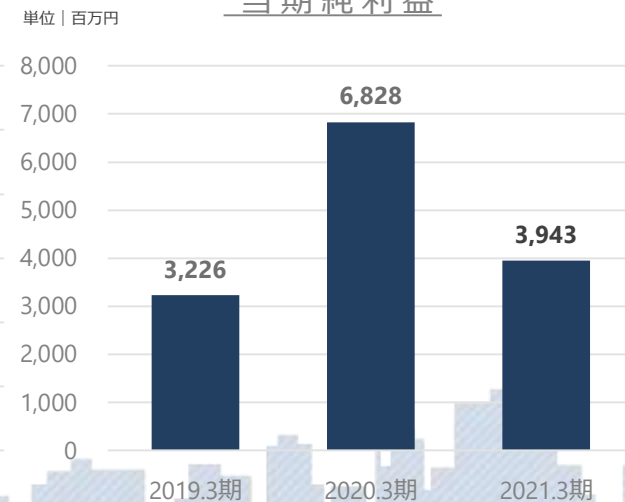
売上高



経常利益

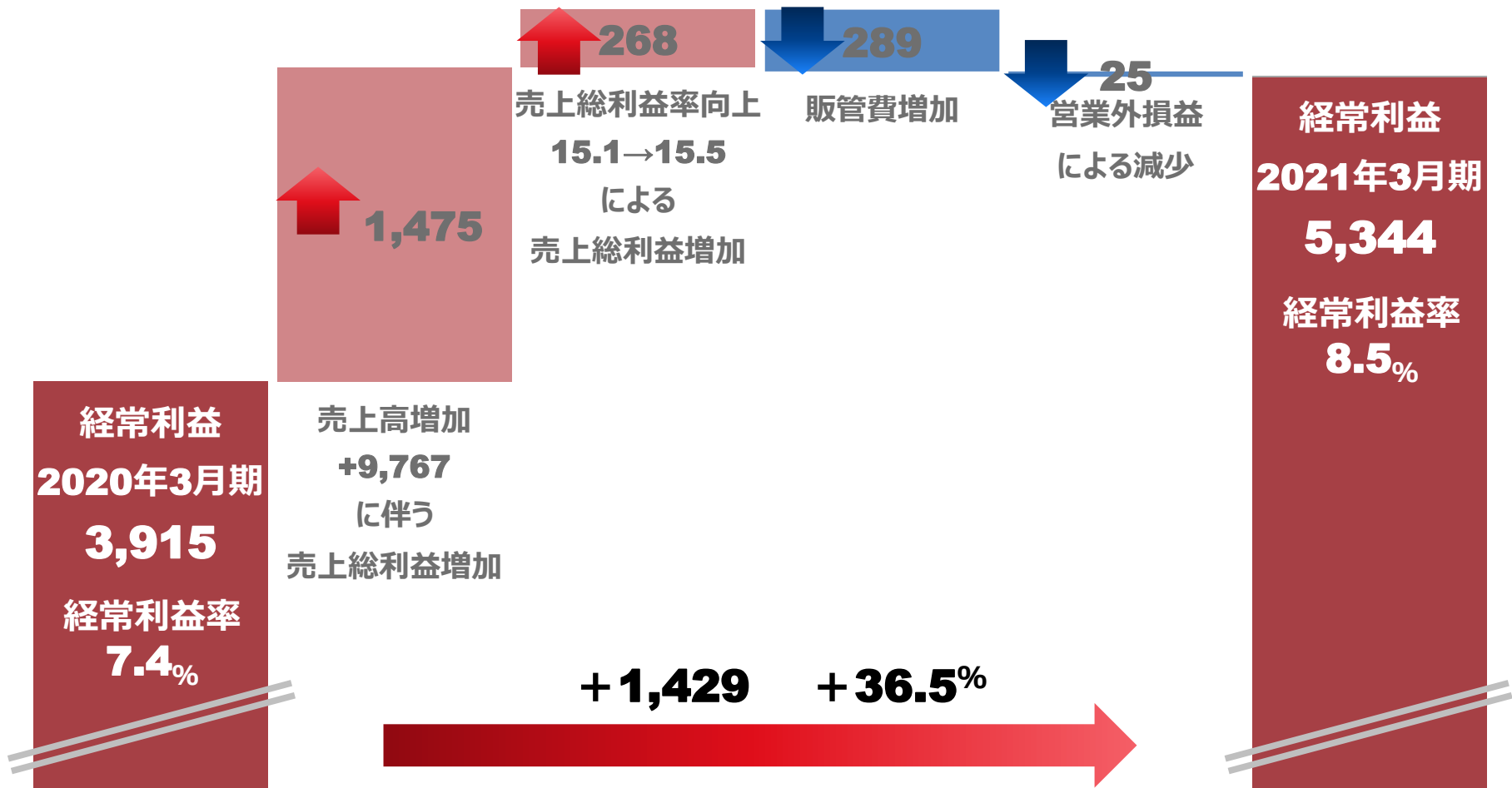


当期純利益



損益状況 | 経常利益増減要因分析 (前期比)

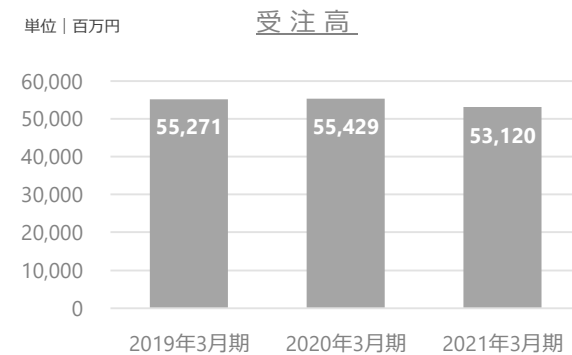
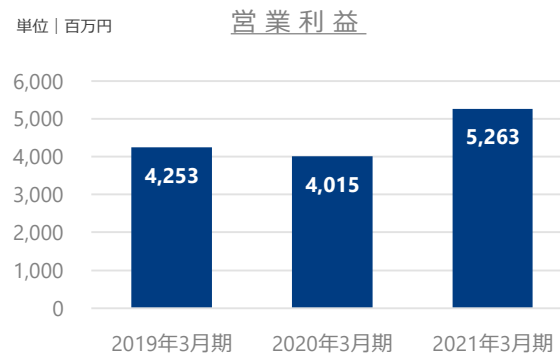
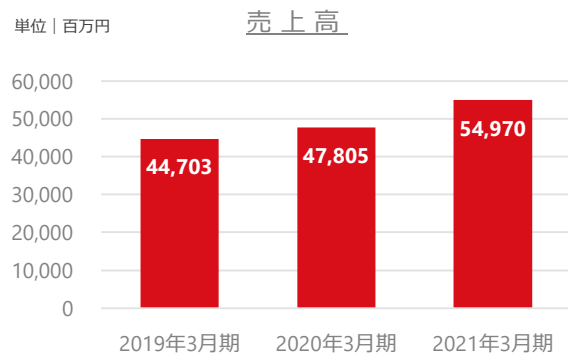
単位 | 百万円



事業別の概況 | 建設事業

業績推移

- 整備新幹線や高速道路大規模更新などの大型工事が順調に進捗、設計変更により売上・利益が増加。
- 当社が得意とする分野の建設需要は底堅く推移し、高いレベルの受注額を確保。
- 整備新幹線や横浜環状南線などの新設橋梁工事、大規模更新や橋脚耐震などの補修補強工事、橋梁基礎や地下貯水設備などのニューマチックケーソン工事がけん引。
- 2022年3月期に向けて、十分な受注残を確保。

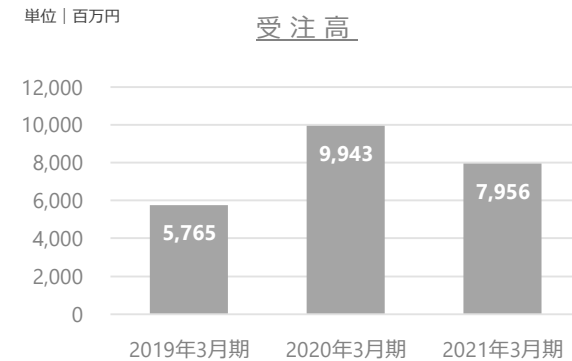
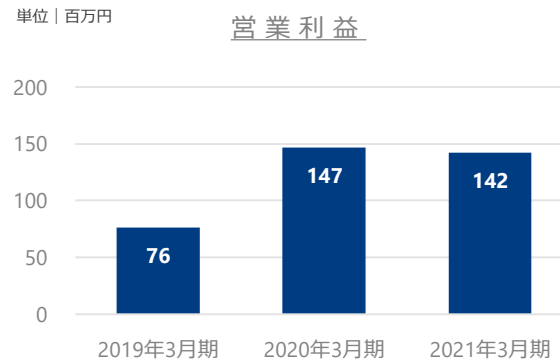
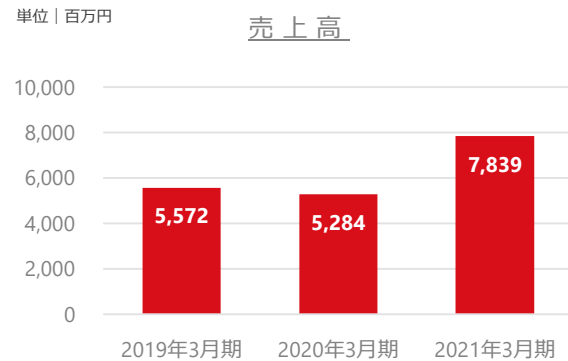


主な受注工事		発注者	工事名称
建設事業	ニューマチックケーソン工事	国土交通省近畿地方整備局	長殿道路1号橋P1橋脚工事
	コンクリートの新設橋梁工事	東日本高速道路株式会社	横浜環状南線神戸橋(PC上部工)工事
	橋梁の補修補強工事	中日本高速道路株式会社	北陸自動車道(特定更新等)富山IC~立山IC間床版取替工事(その2)

事業別の概況 | 鋼構造物事業

業績推移

- 新設鋼橋に加え、高速道路会社の大規模更新工事が順調に進捗し、売上の増加、利益の確保に貢献。
- 「エンジニアリング化」をさらに推進し、単独及びオリエンタル白石とのJVで大規模更新工事を中心とした補修補強工事で、一定の受注量を確保。
- IH式塗膜剥離事業、高耐食検査路など新規分野への取組強化。



主な受注工事		発注者	工事名称
鋼構造物事業	鋼構造の新設橋梁工事	群馬県	補助公共道路改築事業（国道・連携）（仮称） 新大国橋上部工製作架設工事
	橋梁の補修補強工事	西日本高速道路株式会社	令和2年度沖縄自動車道（特定更新等） 許田高架橋南他1橋床版取替工事（その1）

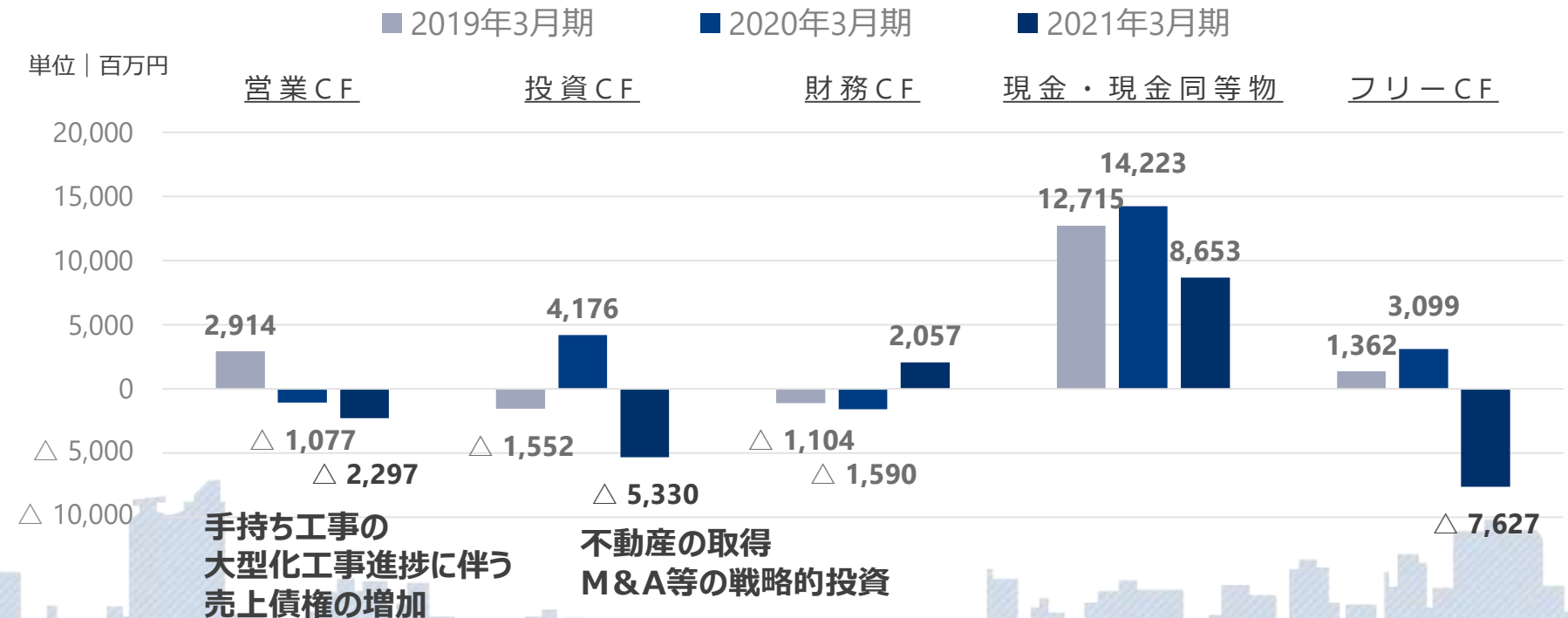
財務状況

単位 百万円	2019年 3月期末	2020年 3月期末	2021年 3月期末	前期末比		主な増減要因
				増減額	増減率 %	
流動資産	35,442	41,667	47,106	5,439	13.1	現金及び預金 $\Delta 5,569$ 受取手形・完成工事未収入金 9,427 未成工事支出金 2,649
固定資産	11,232	10,505	15,863	5,358	51.0	土地 2,137 のれん 1,868
資産合計	46,674	52,173	62,970	10,797	20.7	工事進捗に伴う工事債権の増加 M&Aや不動産等の投資の増加
流動負債	14,542	14,486	19,627	5,141	35.5	支払手形・工事未払金 1,453 短期借入金 1,100 未成工事受入金 1,263
固定負債	4,333	4,367	6,959	2,592	59.4	退職給付に係る負債 $\Delta 320$ 繰延税金負債 $\Delta 410$ 長期借入金 3,238
負債合計	18,875	18,854	26,587	7,733	41.0	主に長期借入金の増加等
純資産合計	27,799	33,318	36,383	3,065	9.2	
負債・純資産合計	46,674	52,173	62,970	10,797	20.7	
自己資本比率	59.6	63.9	57.8	$\Delta 6.1\text{pt}$	-	

キャッシュ・フローの推移

単位 百万円	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
営業CF	2,914	△1,077	△2,297
投資CF	△1,552	4,176	△5,330
財務CF	△1,104	△1,590	2,057
現金・現金同等物期末残高	12,715	14,223	8,653
フリーCF*	1,362	3,099	△7,627

*フリーキャッシュフロー = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー



Ⅲ…2022年3月期 連結業績予想

※ 中期経営計画（2020-2022）2年目

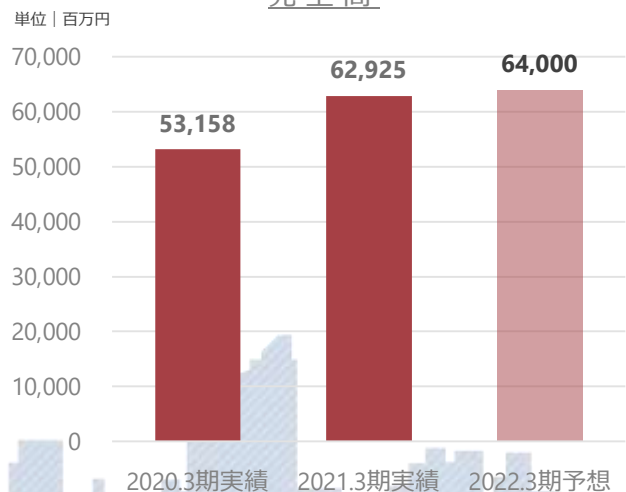
(注)
オリエンタル白石株式会社（当社）は2021年4月1日、
当社の完全親会社であるOSJBホールディングス株式
会社を吸収合併し、OSJBホールディングスの連結財
務諸表を引き継いでいます。



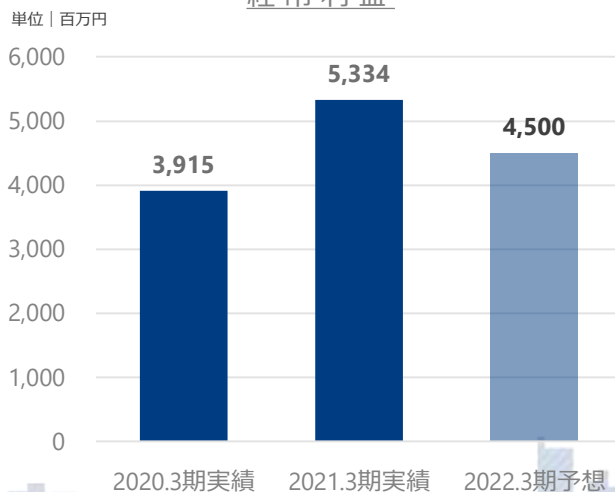
業績予想

単位 百万円	2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		主な増減要因
	実績	前期比 増減率 %	実績	前期比 増減率 %	予想	前期比 増減率 %	
売上高	53,158	5.6	62,925	18.4	64,000	1.7	山木工業も加え 売上増加
営業利益	3,785	△8.1	5,239	38.4	4,500	△14.1	
経常利益	3,915	△6.4	5,344	36.5	4,500	△15.8	設計変更未確定 コロナウイルス 対策を加味
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,828	111.6	3,943	△42.2	3,000	△23.9	
1株当たり 年間配当 円	8.00	据え置き	8.00	据え置き	8.00	据え置き	

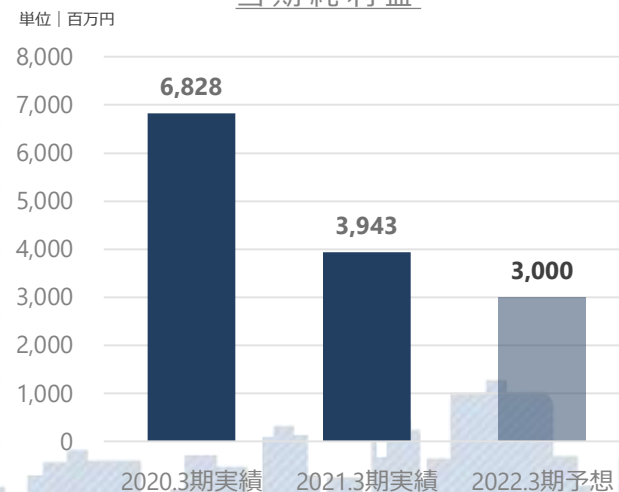
売上高



経常利益



当期純利益

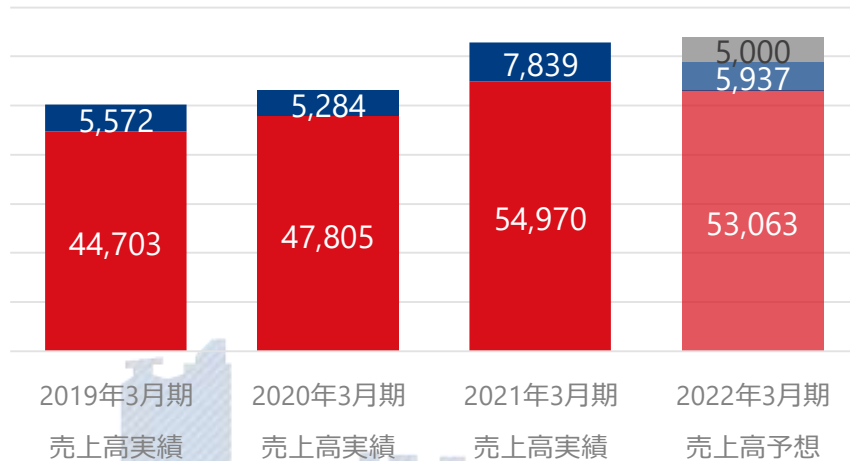


事業別業績予想

単位 百万円	2022年3月期予想				主な増減要因
	売上高		受注高		
		前期比 増減率 %		前期比 増減率 %	
建設事業	53,063	△3.5	56,000	5.4	新設橋梁は現状維持、ニューマチックケーソンは増加、補修補強は高水準を維持
鋼構造物事業	5,937	△24.3	6,000	△24.5	補修補強を伸ばすも新設橋梁が受注減
港湾事業	5,000	—	3,500	—	山木工業の子会社化
合計	64,000	1.7	65,500	7.0	

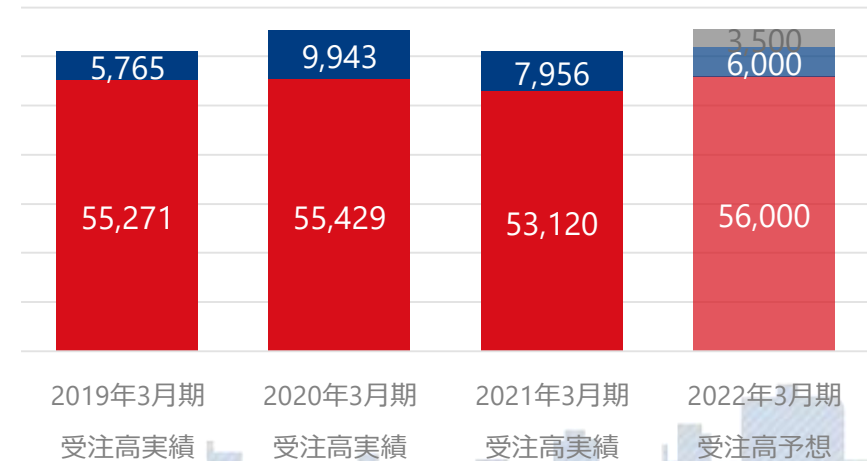
■ 建設事業 ■ 鋼構造物事業 ■ 港湾事業

単位 | 百万円



■ 建設事業 ■ 鋼構造物事業 ■ 港湾事業

単位 | 百万円



株主還元

基本方針

株主の皆様に対する安定した利益還元を経営における最重要課題のひとつと考え、安定した利益配当を継続して実施する

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想
1株当たり年間配当	8.00円	8.00円	8.00円	8.00円
配当性向	29.6%	14.0%	23.9%	31.4%
総還元性向	29.7%	18.4%	31.8%	41.4%

※

当社は2021年4月1日、当社の完全子会社であるオリエンタル白石株式会社を存続会社として合併しております。当期剰余金の配当につきましては、2021年3月31日付の当社最終株主名簿に記載又は記録された普通株主様又は登録株式質権者様に対してオリエンタル白石株式会社より、普通株式1株当たり8円の配当を実施させていただく予定であります。

IV…中期経営計画 (2020-2022) 進捗



事業環境認識

社会環境

- 少子高齢化/人口減少
- デジタル技術革新
- 社会インフラ老朽化
- 激甚化する災害
- 働き方改革/ダイバーシティ
- 新型コロナウイルス感染拡大
- コーポレートガバナンス
- 環境配慮型社会等SDGs
- 上場基準見直し

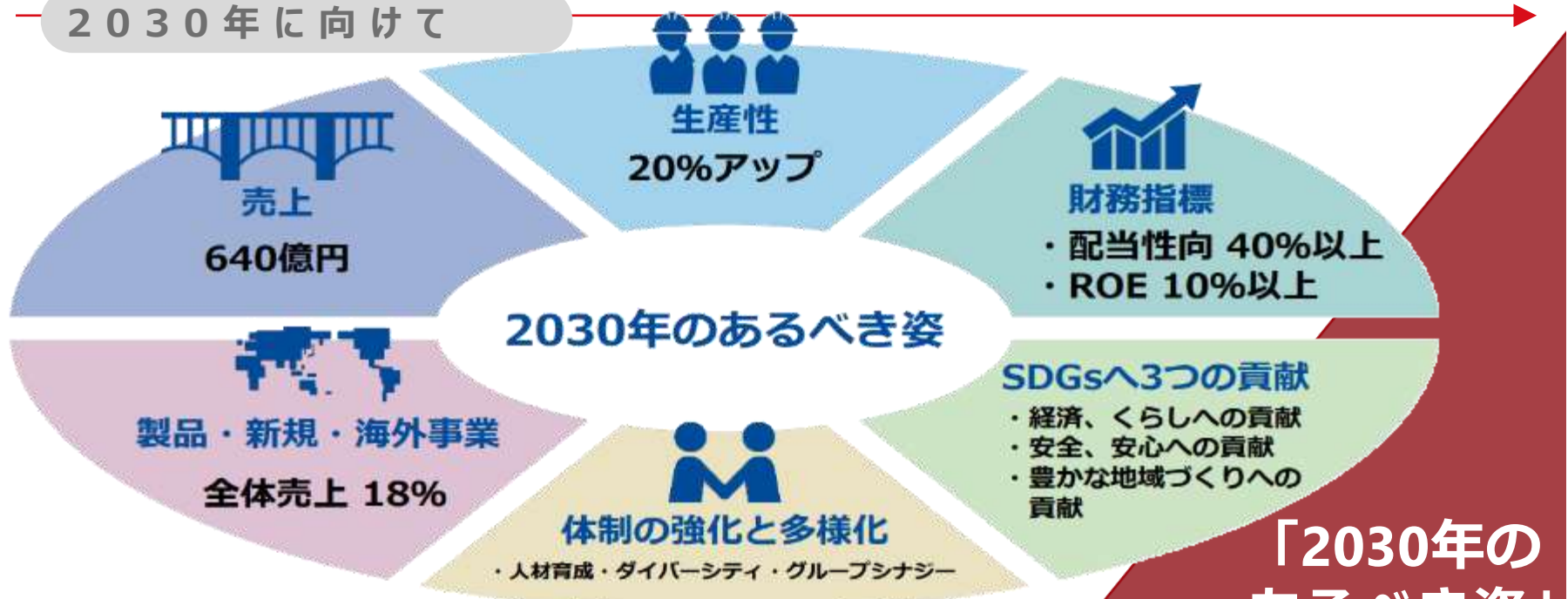
事業環境

- 維持更新事業の拡大
- 国土強靱化
- 地方の活性化（ストック効果とコンパクトシティ）
- 時間外労働の上制限
- 生産性向上の実現
- 品質/安全管理の充実
- 担い手不足
- 出入国管理法改正
- キャリアアップシステム本格運用
- 株主還元策/資金有効活用
- 非財務情報の充実

**事業環境による淘汰を生き延び、
事業環境によりグループをさらに強くし、
事業環境が生むビジネスチャンスで成長する！**

2030年のあるべき姿と中期経営計画2020-2022

2030年に向けて



2020/4～2023/3

「事業」「構造」「投資」「SDGs」に対する施策を進め、「2030年のあるべき姿」への礎を築く

2017/4～2020/3

「既存事業の収益力強化」
「新規・新領域事業への進出」
「研究開発の強化と戦略的投資」

「2030年のあるべき姿」

中期経営計画2020-2022
～グループの『安定と成長』
を止めない～

中期経営計画2017-2019
～『らしさ』で築きあげる安定と成長～

基本方針・骨子

計画の位置づけ

『2030年のあるべき姿』を実現すべく、
グループの強みを活かした事業展開を進め、
競争力及び企業価値の向上を図る！

基本方針

<p>① 課題解決 への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国土強靱化、インフラ老朽化対策、経済活性化、地方創生の課題解決への貢献 これを企業業績の向上につなげる 	<p>③ 筋肉質そして フレキシブル</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成を通じた体制強化とダイバーシティを推進し、筋肉質でフレキシブルな組織を目指す リスクマネジメント、モニタリング体制を強化、グループシナジーの発揮、BCPを実践
<p>② 深める！ 広げる！</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主力事業のさらなる強化に加え、新規事業、海外事業等へ事業領域を拡充 競争力の強化と生産性の向上に資する研究開発と戦略的投資に注力 	<p>④ 有形・無形の 企業価値向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安定的な配当継続を目指す 環境事業を進めるとともに社会貢献に努める

施策

数値目標

事業計画

構造計画

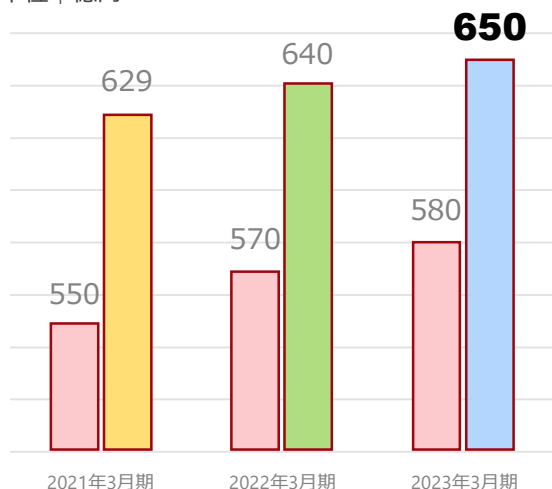
投資計画

SDGs

経営指標目標

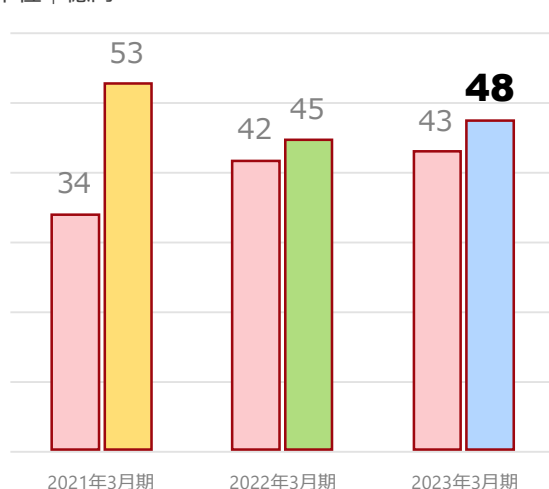
売上高

単位 | 億円



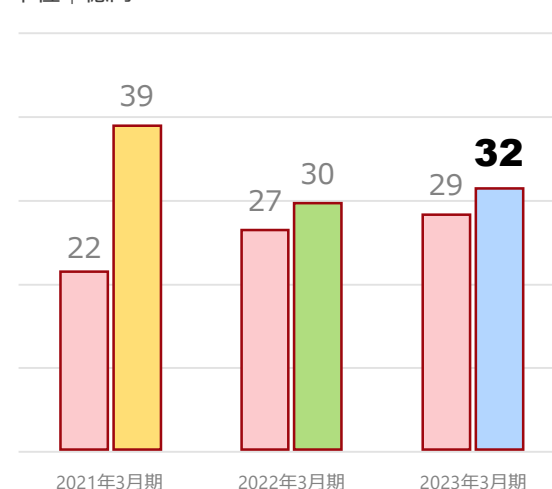
経常利益

単位 | 億円



当期純利益

単位 | 億円



中期経営計画

2030年に向けて着実に成長すべく、数値を計画

2021年3月期 実績

北陸新幹線等の新設橋梁が売上・利益増に貢献

オリエンタル白石・日本橋梁で進める補修補強事業が売上・利益を伸ばす

コロナウイルスの影響もほとんどなく順調に推移

2022年3月期 予測

十分な繰越工事をもとに、山木工業の数値も加え、計画

中計の修正

現状の事業環境、2021年3月期決算、2022年3月期予算も踏まえ、修正

* 2022年3月期、2023年3月期の数値は、山木工業の数値を含む。

経営指標目標

	2021年3月期 実績	2022年3月期 計画	2023年3月期 計画
ROE	11.3%	8.2%	8%以上
配当性向	23.9%	31.4%	40%程度
総還元性向	31.8%	41.4%	40%以上

中期経営計画

安定的な配当継続を目指し、目標を設定

2021年3月期 実績

新設橋梁、補修補強等の事業が好調

配当を継続し、3億円の自己株式購入を実施

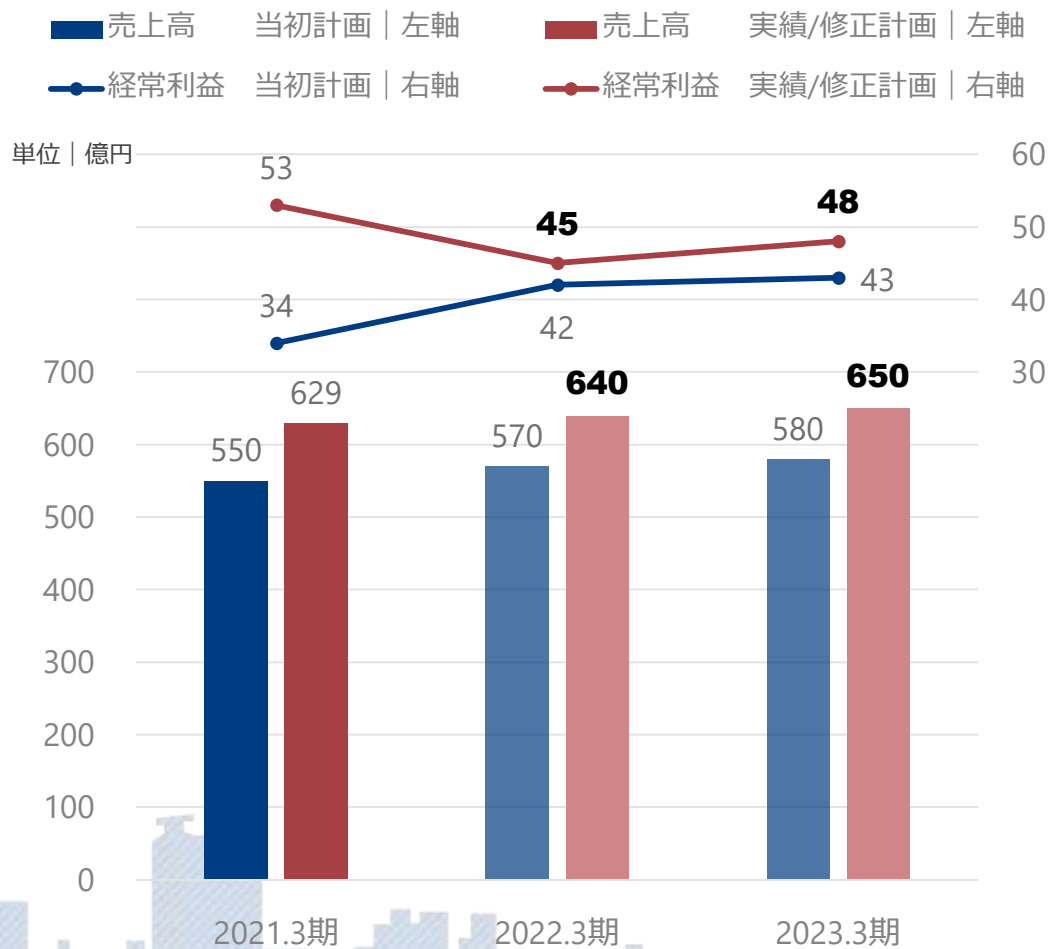
2022年3月期 予測

配当を継続し、3億円の自己株式購入を予定

* 2022年3月期、2023年3月期の数値は、山木工業の数値を含む。

事業計画 | 進捗

売上高・経常利益



基本戦略

公入札における
総合評価力の強化

教育の充実と多様な人材活用
による組織強化

特化技術採用に向けた
技術営業の推進

生産性向上と
コスト競争力向上

競争力を高める
研究開発・設備投資

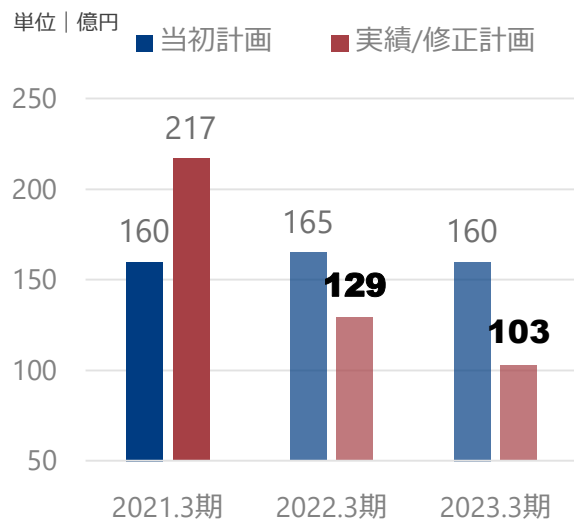
共同研究と
同業社や異業種との連携

グループのシナジー
(JV、共同研究、共同営業)

事業計画 | セグメント別売上の進捗

新設橋梁

- グループで持つ特化工法（SLJ、SCBR等）の新設橋梁への採用拡大
- 強みが活きる上下部一式工事への注力

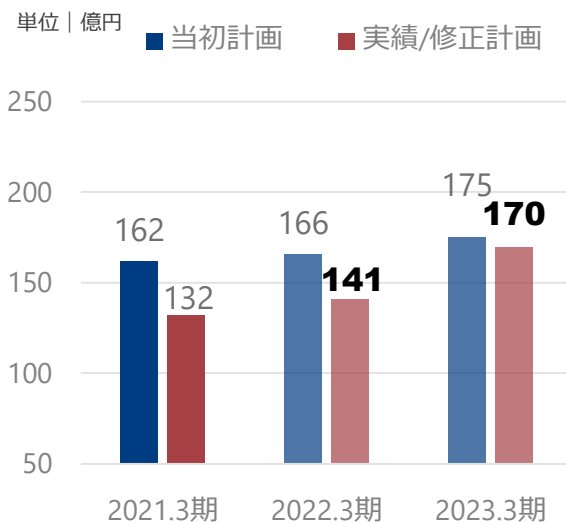


- 北陸新幹線工事等で売上を伸ばす

- 上下部一式工事等がピークを過ぎるも、2024年3月期売上増をめざし、4車線化、6車線化等のプロジェクトに対応

ニューマチックケーン・一般土木

- 継続的な設備投資による技術と施工能力の向上
- 技術開発による自動化と生産性向上

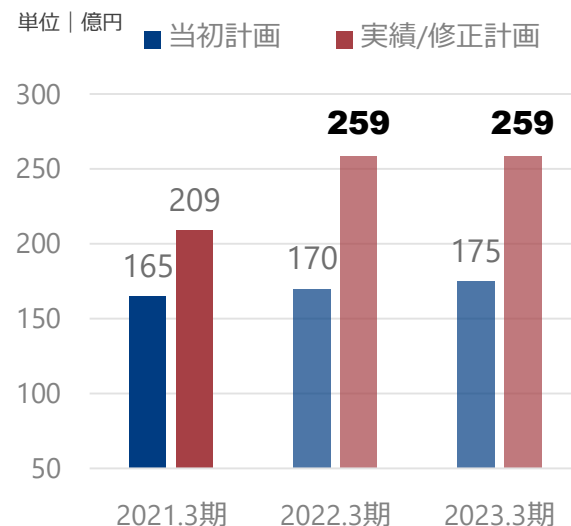


- 大型工事数件の着工が若干遅れるも一定の売り上げは確保

- 治水関係の大型ニューマが動き出し、橋脚基礎基数も増加傾向

補修補強

- グループで持つ特化工法の採用拡大
- コンクリートと鋼構造に対応できる総合力で受注・収益拡大



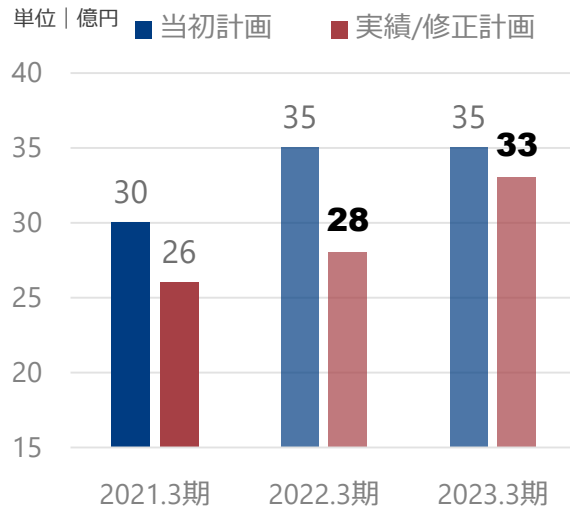
- 好調な受注、大型の設計変更により、大幅な増収

- グループで、床版・桁の取替、耐震補強に対応し、さらなる売り上げ増を目指す

事業計画 | セグメント別売上の進捗

PC 建築

- プレキャスト技術の開発と活用による受注・収益の拡大
- BIM等IT技術の積極的な活用による生産性の向上

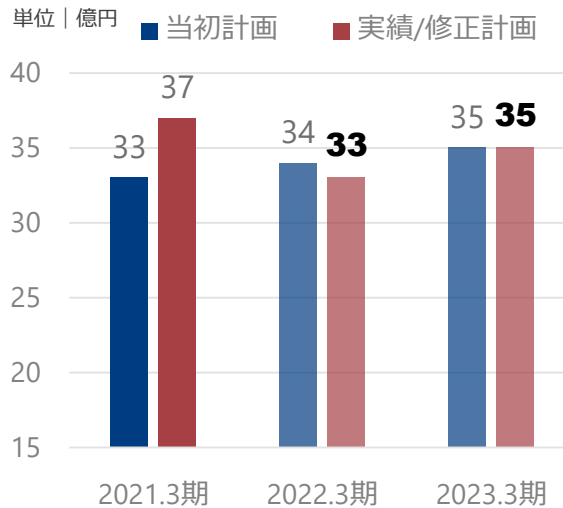


- プレキャスト件数は増加傾向にあるものの、大型工事の延期で計画にショート

- プレキャスト技術の開発が進み、提案のバリエーションが増加

製品・新規・海外事業

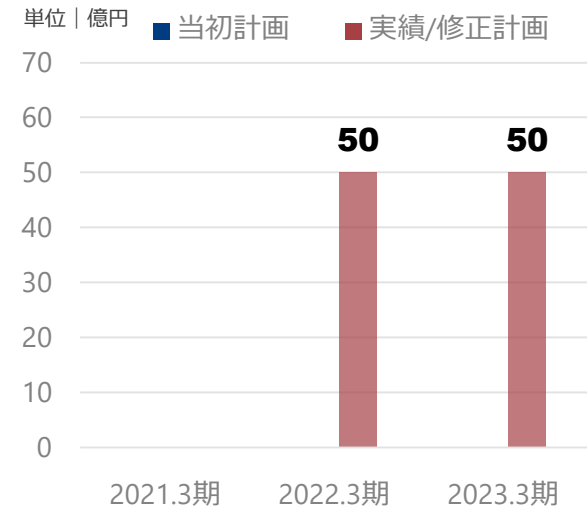
- 製品販売、環境事業、周辺事業(IH式塗膜剥離工法による塗膜塗替え工事等)、不動産賃貸、海外事業等



- 大型工事のコンクリート工場製品に加え、IH周辺事業も 漸増し、不動産事業も開始

- 海外工事は現状不透明であるが、工場製品に加え、IH周辺事業、環境事業等新規事業をスタート

港湾事業



- 山木工業がグループに加わった
- 港湾事業ならびに地域での強みを活かす

事業計画 | 生産性向上施策

施策

提案から施工まで**BIM、CIM**活用

ニューマ工事の**複数台ショベル自動掘削**

コンクリート部材の**プレキャスト化**推進

締固め不要な**高流動コンクリート**使用

ドローン、レーザー計測システムの導入

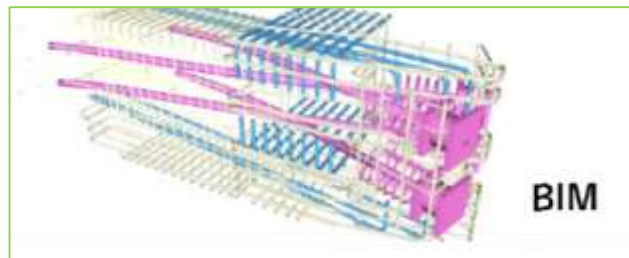
RPA、ICTを駆使した業務効率化

業革推進部の現場支援

目標

生産性
10%UP

前中計期間
実績対比



事業計画 | 生産性向上施策・進捗

施策

提案から施工まで**BIM、CIM**活用

ニューマ工事の**複数台ショベル自動掘削**

コンクリート部材の**プレキャスト化**推進

締固め不要な**高流動コンクリート**使用

ドローン、レーザー計測システムの導入

RPA、ICTを駆使した業務効率化

業革推進部の現場支援

進捗

10件の案件に**BIM**で提案

京都府吞龍ポンプ場で**複数台ショベル自動運転**試行

土木、建築でコンクリート**32,200m³**を**プレキャスト化**

関東工場で桁製作に**中流動コンクリート**使用

河津IC橋他8橋でドローンによる**レーザー計測**を実施

RPAやOCRにより、**176人工**の省人化を実現

高速道路や国交省、県工事など**27工事**で支援実施

目標

生産性
10%UP

前中計期間
実績対比

成果

生産性
14%UP

前中計期間
実績対比

構造計画 | 進捗

働き方改革による、 魅力ある職場を目指すための取組

- 完全週休2日に向けモデル現場で4週8閉所推進
- テレワーク、時差出勤、リモートでの会議や社内監査、安全パトロール等多様な働き方、管理方法を推進
- 社員のライフイベントに合わせた育児関連等規定や高齢者継続雇用の基準見直し処遇改善を実施

BCP

- 新型コロナウイルス対策本部を設置、グループ内で感染防止対策、クラスター防止対策を徹底
- グループリスク管理委員会で各社重点リスク対応策の進捗をモニタリングし、リスクコントロールを実施

人材戦略

- 大学との共同研究やインターンシップを通じた事業PRと多様なアプローチで採用活動を推進
- 客観的成長度合いを見える化し、フィードバックを活性化する育成システム導入
- 協力会を通じて建設キャリアアップシステムを推進
- つくば機材センターにニューマ研修施設を建設

ガバナンス

- 4月1日よりテクニカル上場。グループ再編に伴い、オリエンタル白石が親会社として監査等委員会設置会社へ移行し、取締役会の監査・監督機能を強化

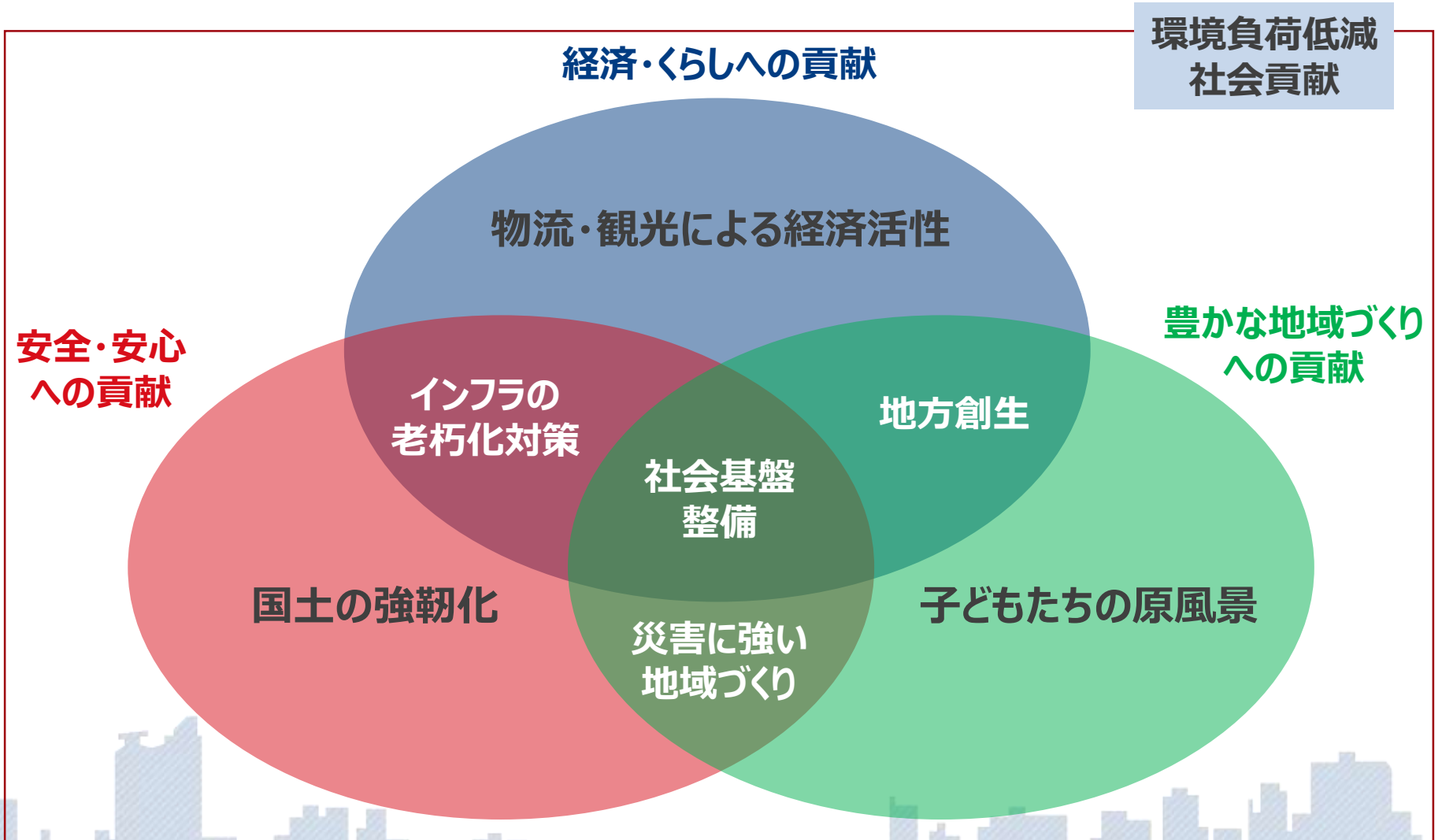
投資計画 | 進捗

■ 設備投資・研究開発投資により、競争力向上・安定収益を目指す

項目		投資額（5ヶ年）	進捗（金額）	
生産能力向上 （設備投資）	工場、機材センターの機能増強 ニューマ機械増設と仕様増強 IoT、AI、ロボット投資	70億円	ニューマ機械増設と 仕様増強 工場等遠隔管理設備 等	12億円
生産体制強化 （M&A 外注等）	地域建設会社、周辺事業会社の M&A 現場支援機能の外注 人材育成・教育投資	40億円	山木工業M&A ニューマ研修施設 等	38億円
研究開発 （技術提携等）	技術研究開発 産官学との共同研究 異業種との共同開発	30億円	大学等との共同研究含む 技術研究開発	4億円
その他 （新規事業）	海外事業 （共同工場・現地企業買収） 国内事業 （循環型植物工場、周辺事業）	30億円	循環型植物工場	着手
不動産	賃貸不動産物件等	30億円	都心の賃貸オフィスビル	25億円
5ヶ年投資額合計	200億円		約80億円	

SDGs への取り組み

- 「誰も置き去りにしない」「弱者をつくらない」ための
オリエンタル白石グループのSDGs



SDGs への取り組み | 進捗 ii

SDGsの達成に向けて「わがグループらしさ」をもって貢献

■ 治水施設建設や耐震補強工事による
「災害に強い強靱な国土インフラ構築」



■ インフラ整備を通じた経済活性、
地方創生、住民の豊かな暮らしの実現



■ 補修補強工事による老朽インフラの延命化
ならびにサステナブル社会への貢献



■ 製鉄所や火力発電の産業廃棄物利用によるCO2削減



■ プレキャストの採用拡大による
森林伐採削減およびCO2削減



■ 太陽光発電事業の継続



■ 循環型植物工場などの環境事業の開始



■ グループが造る橋梁が、地域に育つ
子どもたちの「故郷を思う原風景」に



総括

中期経営計画2020-2022の見通し



代表取締役社長 大野達也

中期経営計画の初年度となる2021年3月期では、新設橋梁、補修補強、ニューマチックケーソンの主要事業が総じて好調で、かつコロナウイルスの影響も限定的だったことより、最終年度目標を売上・利益とも上回りました。

それを受け、中期経営計画最終年度目標を、売上・利益とも上方修正しました。

グループ再編を行い、オリエンタル白石をリーダーとして新たに山木工業を加える体制となりましたが、グループ各社とも、現在求められるインフラ整備や国土強靱化でその強みを発揮できる顔ぶれとなっており、コロナウイルス対策を行いながら、さらなる成長につなげていく所存です。

